

平成 30 年度地域課題研究助成の報告

1. 研究課題名

心臓リハビリテーション外来に通院していない急性冠症候群患者の退院後の生活状況とその要因

2. 研究代表者及び所属

長岡赤十字病院 結城真

3. 研究メンバー

結城真¹⁾ 丸山和真¹⁾ 八木美穂¹⁾ 下村結花里¹⁾ 高柳智子²⁾

1) 長岡赤十字病院 2) 新潟県立看護大学

4. 学内責任者

新潟県立看護大学 高柳智子

5. 研究経費執行額

	旅費	報償費	役務費	需用費	合計
執行額(円)	21,870	0	49,526	0	71,396

6. 研究の概要

本研究は、心リハプログラムが入院中のみに留まった急性冠症候群患者の退院後の生活状況とその要因を明らかにすることを目的とした。

緊急経皮的冠動脈形成術を受け、退院後に心リハ外来へ通院していない患者 5 名を対象に、術後 6~8 ヶ月のフォローアップカテーテル入院時に半構造的インタビューを実施し、質的に分析した。

生活状況カテゴリーは、【退院後も継続出来ている事】、【退院後に出来るようになった事】、【退院後に出来なくなった事】、【退院後も出来ない事】の 4 つに集約され、それらへの影響要因として、『人的環境』、『物的環境』、『生活環境』、『外発的経験』、『内発的経験』、『健康行動継続への葛藤』が抽出された。患者が退院後もセルフケアの継続や行動変容（減塩、運動の継続、セルフモニタリングの継続など）が出来ている影響要因には、医師をはじめ理学療法士や管理栄養士からの専門的な介入の効果が目立ち、多職種介入で行う心リハプログラムの有効性を再確認出来た。一方で、退院してから、セルフケアに困難を実感した患者もおり、生活指導内容の再考と患者を継続フォローできる体制の必要性が示唆された。

7. 今後の学会発表の予定

- ・有 (2019 年度 日本心臓リハビリテーション学会 第 4 回関東甲信越支部地方会)